

第1回 Jークレジット制度森林小委員会 議事概要

Jークレジット制度運営委員会事務局

日 時：令和4年4月28日（木）13：00－15：00

場 所：農林水産省4階 第二特別会議室および WEB 会議にて開催

委 員：丸山委員長、浦上委員、佐藤委員、立花委員、恒次委員、二宮委員、本郷委員

事務局：林野庁

：小坂森林整備部長、川村課長、
増山推進官、魚住補佐

経済産業省

：内野企画官

環境省

：井上室長

農林水産省

：久保室長

みずほリサーチ&テクノロジーズ（株）

：荻田上席主任コンサルタント

1. はじめに

- ・丸山委員を委員長に選任することが承認された。
- ・森林小委員会の設置について事務局より説明した。

【審議事項】

2. 1 追加性要件

- ・森林経営活動方法論の追加性判断基準の見直しについて、削減系プロジェクトの基準（投資回収に3年以上）との比較も考慮し、案2（収入が得られるのは植栽から40年以上も後で、50年の林業経営サイクルを通して総合的に赤字である、という林業経営の現況を踏まえ「森林管理プロジェクトは全て追加性を認定」とする案）を主体に検討する方針を事務局より提示した。審議の結果、案2が妥当か、あるいは（収支は長期で評価すべきという主張なら）案4のように収支評価期間を延ばすことが妥当か、という論点を軸に継続して検討することとなった。

2. 2 主伐時の排出計上（再造林による吸収量の算定）

- ・主伐時の排出量計上の考え方の見直しについて、再造林を実施した場合には排出量計上を控除する案を主体に検討する方針を事務局より提示した。審議の結果、将来の吸収量をクレジット認証することの是非や、再造林へのインセンティブとしてクレジットを造林初期に付与する必要性とのバランスをどのようにとるか、という論点を軸に継続して検討することとなった。

2. 3 再造林活動方法論

- ・再造林に特化した方法論の新規策定について、事務局より説明した。審議の結果、再造林直後は吸収量が小さいことへの対応や認証対象期間をどう設定するかなど、具体的な制度設計

について継続して検討することとなった。

2. 4 木材利用の炭素固定量

- ・伐採木材製品中の炭素固定量について、クレジット付与先を木材サプライチェーンの“川上”である森林側とし、炭素残存率の評価期間を30年とする案を事務局より提示した。審議の結果、クレジットを“川上”と“川下”のどちらに付与するのが再生林や木材利用のインセンティブとして適切・効果的か、残存率の評価期間はもっと長期（残存率がほぼ安定するような期間）であるべきではないか、という点を主要な論点として継続して検討することとなった。

2. 5 プロジェクト対象区域内の天然林の吸収量

- ・プロジェクト対象区域内の天然林の吸収量を算定対象にする案について、事務局より説明した。

3. その他の検討課題

- ・森林管理プロジェクトの認証対象期間を最長16年に延長する案、1990年以降の施業履歴の確認について現地調査による確認結果を認める案について、事務局より説明した。

【報告事項】

4. その他

- ・今後のスケジュールについて、事務局より説明した。

文責：事務局